

夏の糸色

ラベンダー

6月下旬から農園にあるラベンダーが咲き始め、初期の段階で摘み取り結束してつるして乾燥させてドライフラワーにしました。富良野地方ではラベンダーは主に4種類栽培されていて、農園にある品種は一番香りが強いオカムラサキという品種です。つぼみが小さいうちに刈り取ると香りが残り、良質のドライフラワーができます。ラベンダーは痩せ地で育つこともあり、50年ほど前は農園周辺にラベンダーを栽培する農家が多くありました。日本でのラベンダー発祥の地も当農園のある東中地区でした。この東中地区には小さなラベンダー工場があり、シーズン中は24時間体制で栽培農家が交代で出役して蒸留しエキスを抽出して香料会社に販売していました。その後、輸入の安価な香料により栽培農家は徐々に減少し、すたれていきました。最後まであきらめずに作り続け



たのが現在、観光農園として有名なファーム富田さんです。①

シャーベット

農園の宿泊客の朝食のデザートにピノ・ノワールのシャーベットが登場しました。昨年秋に収穫した2番果のぶどうを使用しています。2番果ですので糖度はやや低めですが、シャーベットにはちょうど良い甘さです。ぶどうは収穫後そのまま冷凍しておき、今年4月にジャムにして冷凍しておいたものです。この猛暑の中、ワインの香りを感じながら食べられるピノ・ノワールシャーベットは絶品です。ちなみにこのシャーベットの考案者は、早朝より出勤して朝食づくりを担当している女性スタッフです。①



火田レストラン2021

7月27日、コープさっぽろ主催の『畑でレストラン』が当農園で催されました。昨年はコロナ禍で中止となりましたが、今回は例年より参加人数を30%減らし、各テーブルの距離も取りテーブル上にパーテーションを置き開催しました。料理は札幌の

イタリアンレストラン「テアトロディマッサ」の新田シェフです。当農園の野菜やワインなどをふんだんに使った腕利きシェフのフルコース料理にみなさん大満足でした。気温は32℃と高めですが、風もなく曇間もあり最高の条件でした(写真◀右側が新田シェフ、左側の女性は責任者の湯澤さん)。①



水源ツアー

7月2日、農園スタッフのみなさんなどと農園に引いている伏流水の水源地を見学に行きました。この伏流水は、近隣の10数戸が利用しています。昔は近くにボーリング技術をもった業者さんがいなかったこともあり地域のみなさんは水の確保に苦労していました。そこで、豊富に自噴している伏流水をみんなで利用することになり、工事を進めて現在に至っています。上富良野町百年史によると、その水源近くは、縄文時代中期(5000

年ほど前)に縄文人が住んでいたそうです。農園周辺の山沿いの湧水があるところ数か所で、縄文人が住んでいた同じような記録が残っています。畑を耕している土器や石おのが出てきたという話もありました。町が認定した遺跡として、直方体の立札がたててあります。将来、縄文探検ツアーが出来そうです。①



雷と農業

7月25日、東京にある電気通信大学の芳原教授が雷受信機などのメンテナンスのため来園されました。数年前に先生がご家族で当宿泊施設を利用されたのが縁で、雷を受信するアンテナをファームカフェの屋根の上に設置することになりました。芳原先生は雷と異常気象の関係を世界の研究者と研究している方です。この装置は晴れた日には半径300km位は雷をキャッチするそうです。データはクラウドで

アメリカへ送られ、そこで計算されて東京の芳原研究室に送られます。設置は北海道で当農園一か所だけだそうです。農業分野でも活用する日が訪れることと思います。①



7月13日から始まった 編集後記

7月13日から始まった編集後記は、遠い昔のような気がします。これだけ高温で降雨がなければ、作物には大きな影響がでます。ぶどうはこんな炎天下のなかでも頑張っていますが、新植した樹は、根が浅いためトラクターを使って水分補給を施しています。農業はいつの時代も自然の成す業を受け入れてきましたが、このような気候は他ならぬ人災でしょう。本州などは大雨が多いようですが、少しでも雨雲が北上してほしいと願っています。雨が降りますように！①

代は、遠い昔のような気がします。これだけ高温で降雨がなければ、作物には大きな影響がでます。ぶどうはこんな炎天下のなかでも頑張っていますが、新植した樹は、根が浅いためトラクターを使って水分補給を施しています。農業はいつの時代も自然の成す業を受け入れてきましたが、このような気候は他ならぬ人災でしょう。本州などは大雨が多いようですが、少しでも雨雲が北上してほしいと願っています。雨が降りますように！①

多田農園 信通

Tada farm tsushin 2021.08



多田ガーデンづくりも
ようやく手がけました
数年かけて造って
いきたいと思っています



有限会社 多田農園

〒071-0529 北海道空知郡上富良野町東9線北18号
Tel 0167-45-5935 Fax 0167-45-6012
info@ninjin-koubou.com <http://ninjin-koubou.com/>



ワイナリー代 粧直し

壁をリニューアル

ワイナリーの壁のリニューアルを50年ぶりに行いました(写真▲)。このワイナリーのリニューアルは、創業120周年事業として行いました。塗装は、旭川市のNKリフォームの倉田さんをお願いしました。また、壁の色は一年前から外出時に様々な建物の壁の色を見ながら屋根の色など総合的に検討して決めた色です。からし菜色系で火山灰の土の色とも似ています。土の匂いを感じるような自然に近い色でいい色に仕上がりました。その後は、デザイナーのあべみちこさんが壁にTADA WINERY等の文字とロゴマークを描いてくださいました(写真▼)。記念の年に一新でき新たな気分にもなりました。①

伏流水でエコ冷房

7月13日から連日35℃前後の気温が続いています。ワイナリーの内部に冷房施設はありませんが、天井と壁に通常の2倍の断熱材が入っているので、23℃位で推移しています。しかし、このように連日35℃ではこの温度を維持するのは厳しくなると思い、伏流水をワイナリーの中にホースで引っ張り、それに灌水チューブを取り付けてホースの穴を大きくし、水を流しました(写真▼)。すると1.5℃くらい下がりました。設置した7月31日の最高気温は37℃でしたが、ワイナリー内は22℃でした。水温は11℃くらいと冷たく、伏流水ですので水道料はかかりません。まさに、エコです。①



ぶどう畑と ワイン



ぶどうの脇芽取り

ぶどうの受粉が終わり着果した直後の7月10日ごろからぶどうの脇芽取りを始めました。就労継続支援事業所の利用者のみなさんまもほぼ覚えて大変、暑いなかコツコツと作業に取り組んでいました。この脇芽を取り除くとぶどうの房が見えて風通しがよくなり、防除の際に農薬などがかかりやすくなり病気などの予防に効果があります。①

ぶどう栽培現地研修会

7月13日、仁木町(車で片道4時間)の仁木ヒルズワイナリーを会場に行われたぶどう栽培現地研修会に参加しました(写真▼)。ぶどうの根頭がんしゅ病と土壌について研修しました。根頭がんしゅ病は防除方法がない病気で、岡山県で20年以上研究されている方が講師で



した。どのような性質の病気かは詳しく説明されたので理解をすることができましたが、結局、解決策は何もありませんでした。この病気は、寒い地域に多いとされています。免疫力が弱った樹に発生しやすいため、寒むさなどのダメージで多く発生する可能性は十分考えられます。樹の免疫力を高める農法が重要になると思います。①

2020年産ワイン瓶詰

7月15日~16日、2020年産ワインの瓶詰をしました(写真▼)。ミュラー・トゥルガウ約250本とメルロ白約300本、シャルドネ約1,300本を瓶詰めしました。リリースは8月中旬の予定です。ミュラー・トゥルガウは初リリースとなります。①



石垣づくり



看板前に石垣

農園入口の看板前に石垣を造りました。石は、畑にある石を利用しました。畑の石は扇状地にあるため川石で丸みのある重い生き石です。太古の昔、洪水などによって石が運ばれ川となって角がとれて丸みを帯びたのでしょう。石積みは農園の女性スタッフ二人が担当しました。指導はふらの観光協会の野村さんをお願いしました。野村さんは、脚本家倉本総さんが主宰していた富良野塾の卒業生で舞台監督が専門分野です。石積みは、北の国からのロケ地の石積みをはじめ数多くの現場を手掛けており、セメントは使わず土と石灰で石をつないでいく工法です。入り口の看板周辺がきれいに整備されました。①



ガーデンプロジェクト

多田ガーデンづくりもようやく始まりました。ペゴニア、マリーゴールドなどの花の苗で小さな花壇が完成しまし

た(表紙写真)。そして石垣のスパイラル花壇もできあがりしました(写真▼)。担当したのは農園の女性スタッフ二名です。ガーデン全体の面積は500坪くらいで、りんごや梨、栗、プラム、ブルーベリーなどの果樹もあります。他にもすでにラベンダー、アスパラ、山わさび、ハーブなどがあり、これらを活かしながら数年かけて造っていきたいと思っています。①

